

法規分類大全第一編

衛生門二

藥劑

文部省へ達 五年十月五日

諸港輸入藥品取締ノ儀ニ付別紙ノ通申出有之候處右ハ歐洲各國ニ於テモ取締ノ方法相立居可申候間其省御雇外國教師等へ篤ト承合右取締向方法取調更ニ申出可有之候也

諸港輸入藥品取締ノ方法取調ヘシム  
七年九月十九日文部省達  
ヲ以テ諸港取締規則ヲ定ム  
七年三月文部省達第十一號ヲ以テ東京府下ニ可願揚子設置ス

諸港輸入ノ藥品或ハ藥質不分明或ハ價藥等ノ類有之由ニ候處今般長崎醫學校ヨリ別紙ノ通申立有ハ確ト其證ヲ得候儀ニテ其他ノ海港ニ於テモ必右體ノ藥品多分ニ可有之抑藥物ノ人命ニ關スル不可不慎ハ索ヨリ不待論候方今文明進歩ノ際篤ク民生御救濟ノ御趣旨モ被爲在既ニ海外ノ名醫ヲ雇ヒ普ク其術ヲ施候半右體ノ藥品等賣買致シ候テハ其功用ノ異ナルノミナラス大ニ人命ヲ害シ國家ノ盛衰ニモ關係致シ實以不容易儀ト奉存候間右取締ノ方法各開港場稅關ニ於テモ速ニ御建設有之度奉存候依テ別紙相添此段御届申上候也

文部省申渡 五年十一月二十四日

諸港輸入價藥等取締ノ儀ニ付先般御達ノ筋有之ニ付醫學校教師共ハ右方法關方申達置候處教師建白ノ趣ヲ以テ則チ別紙ノ通申出候就テハ即今創業ノ儀ニテ海外各國同一ノ規律ニハ難運候間先以司藥ノ一局ヲ御創立總テ輸入ノ藥取締ノ方法等御詮議ニ相成候ヘハ隨テ一定ノ規則モ出來可申ト奉存候依テ右一局創立ノ儀ハ尙取調可申候ヘトモ先以醫學校ノ見込書并教師建白書相添此段申上候也

文部省達 第六年六月二十七日

其縣所產之藥品金屬等去ル明治庚午ヨリ昨壬申迄三箇年之生産高明細取調早々可届出此段相達候事  
東京府達 六年七月四日

右之通被相達候間市在共區限リ取調來ル七月十五日限リ府廳へ可差出事

文部省布達 第七年三月二十七日

東京府下ニ可願揚子設置ス

各府縣所產ノ藥品金屬ヲ調査開申セシム

十六年五月内務省告示甲  
第八號ヲ以テ名稱ヲ改メ  
八年六月布告第百十二號  
ニ依テ内務省ニ屬ス衛生  
總ノ目ニ載ス

毒藥取扱規則  
十年二月布告第二十號ニ  
依テ消滅ス

### 今般東京府下ニ司藥所設立候此旨布達候事

(備考)

内務省衛生局第一次年報抄錄  
明治七年三月文部省東京司藥場ヲ設立ス略蓋シ本邦近來洋藥ノ需用頓ニ増加シ賈取藥ノ輸入亦隨テ夥  
多ナリ而ルニ藥商ナル者率テ其真價純雜ヲ鑑別スルノ職ニ乏シ因テ司藥場ヲ各開港地ニ設ケテ專ラ夥  
品ヲ検査シ兼テ衛生上諸般ノ試験ヲ爲サシメントシ先ツ東京ニ一場ヲ置キ以テ其端ヲ啓ク(官職ニ門官ヲ  
ノ職名ヲ示スヘシ)

文部省ヨリ東京京都大阪三府へ達 七年九月十九日

別册記載之藥品ハ性効峻烈ニシテ若シ其用ヲ錯マルトキハ忽チ人命ヲ傷害スヘキ毒藥ト相成妄リニ難  
取扱品柄ニ候處是迄賣買之規則無之何人ニ限ラス隨意ニ賣渡シ或ハ尋常之雜藥間ニ錯列シ動モスレハ  
其器ヲ取違ヘ不測之危害ヲ醸シ候等弊害不尠候ニ付向後藥品商賣之者別册之通相心得候様布達可致此  
段相達候也

(別册)

一左ニ記載セル毒藥ハ相當ノ器ニ内レ別段錠前附之箆筒ヲ製シテ之ヲ藏シ他ノ藥品ト混雜スヘカラス  
一毒藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外ハ醫師藥舖主化學家賣藥家及ヒ工職家ヨリ需要之趣旨ヲ記  
シタル證書ヲ以テ求ムルニ非サレハ決シテ販賣スルヲ許サス

但醫師ヨリ送ル所ノ處方書ハ悉ク貯置且ツ販賣ノ節ハ藥名分量年月日及ヒ買主ノ姓名住所ヲ記シ  
貯置ヘシ

一司藥場ノ吏員臨時藥舖ニ立入り點檢スルコトアルヘシ

### 毒藥

- 砒石
- 砒石
- アトロヒチ
- ストリキニーチ
- ベラトリチ
- アコチチ

- エルコチチ
- モルヒチ
- コロール金
- 靑酸
- 燐
- 昇汞
- 沃汞第一第二
- 白降汞
- 赤降
- 硝酸亞酸化汞
- 生々乳
- 飛白霜
- 輕粉
- フローム
- ヨザユム
- コロ、ホルム
- コロラルヒダラート
- 阿片
- 吐酒石
- 番木鱉
- 麥奴
- 芫菁
- 曼陀羅華
- ホウレルス水
- コロタイン

此他新發明及ヒ新舶來之藥品ハ先ツ司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ藥毒之劇易ヲ判シ然ル後發賣スヘシ  
東京府達 七年九月二十二日

右之通り違有之候間其筋渡世ノ者ハ勿論各醫無洩可相徇者也

東京府達 七年十月二十八日

毒藥賣買ノ儀ニ付去月中相達置候通り不日文部省司藥場懸リ官員臨時藥舖ニ立入點檢致ス筈ニ候間其  
筋營業ノ者共兼テ相心得不都合無之様可致此旨更ニ相達候事

東京府司藥場官員毒藥  
検査トシテ臨時藥舖へ  
立入ニ付不都合ナカラ  
シム

大阪府ヨリ文部省へ伺 七年十一月三日  
第百六十六號御達ノ趣管下一般へ可致告諭ノ處毒藥雜冠雄黃ハ專ラ取扱候品ノ旨府下病院ヨリ申出

醫部百六十六號ハ七年九月十九日ノ文部省達ヲ指ス

衛生門 藥劑  
候條右御達へ増加致布告度御差支等無之候哉至急御指揮有之度此段相伺候也  
文部省指令 七年十一月二十日  
伺之通不苦候事

ヨードカリ、キニーチ  
二藥ノ實態品取締規則  
十三年一月十七日達ヲ以テ廢止ス

八年七月二十三日内務省達ヲ以テ則施行期日ヲ定ム  
九年三月十九日達ヲ以テ藥品二十種ヲ追加ス

東京京都大阪三府へ達 七年十二月二十五日  
藥品ノ儀ハ純良精製ニ無之テハ眼前人命ヲ誤リ候重要ノ品柄故賣買上取締方法可相立ニ付自今キニーチ、ヨード、ポットアス、カリト云々ノ二藥萬一贗惡ノ品販賣貯藏致シ候者ハ左ノ罰則ニ照シ處分候條此旨管下へ布達スヘキ事  
但爾他ノ藥品モ其名ヲ掲ケ追テ可相達且本文罰則施行ノ期日ハ追テ文部省ヨリ可相達事  
一贗藥敗壞ヲ販賣スル者ハ五十圓以内ノ罰金ヲ課スヘシ  
但再犯以上ハ初度ニ倍スル罰金ヲ課シ尙藥品ノ販賣ヲ禁ス  
内務省へ達 七年十二月二十五日  
藥品取締及ヒ罰則ノ儀別紙ノ通東京京都大阪三府へ相達候條此旨可相心得候事  
司法省へ達 七年十二月二十五日

藥品取締及ヒ罰則ノ儀別紙ノ通東京京都大阪三府へ相達候條此旨相心得該地裁判所へ可相達事  
但罰則施行ノ期日ハ追テ文部省ヨリ通達可致事

文部省伺 七年九月十八日  
藥品取締ノ儀ハ先般御許可相成候通醫制ノ規則ニ基キ府下ノ事情ヲ斟酌シ徐々著手可致ニ付緊要ノ藥品ハ二三種ツ、順次其藥名ヲ掲ケ贗藥販賣買不致候様取締可致候條左ノ通罰則相定申度此段相伺候也  
文部省再伺 七年十二月二日  
去ル九月十八日相伺置候藥品取締罰則ノ儀ハ日用ノ要品ニ限リ處分致候儀ニテ其他通常ノモノタリトモ贗造租惡ノ藥品賣買致候者ハ勿論相當ノ處分可致候得共是迄普通ノ規則無之藥商亦其眞贗眞否ヲ辨認スルモノ甚少ニ付一時細密ノ法則取設候共實際不行届ノミナラス却テ時勢人情ニ戻リ候場合モ可有

之ト存候然ルニキニーチ、ヨード、ポットアスノ如キハ藥品中最必用ノ品ニシテ死生ノ際特リ其効ニ頼テ病ノ經過轉歸ヲモトスヘキ無二ノ君藥ニ候處藥商モ偶其價僞ナルヲ知ルモノアルモ低價ヲ貪テ之ヲ購求販賣シ外商亦此機ニ乘シ贗惡品ノ輸入逐日増加シ都會ノ藥舖ト雖モ純良ノ品ヲ備ヘサルモノ不尠ノ勢ニ至リ實ニ其弊害不可測儀ニ候條醫制第六十三條ノ趣意ニ基キ先以急ニ右二品ノ取締致著手零行届候上爾他ノ藥品モ順次其名ヲ掲ケ右罰則ヲ以テ取締致漸々細大ノ規律相立候様致度候ニ付右罰則ノ儀ハ至急御許可ノ上左案相添三府へ御達相成度此段更ニ相伺候也  
指令 七年十二月二十五日  
伺之趣聞屆罰則ノ儀米書ノ通被定東京京都大阪三府并司法省へ別紙ノ通相達候事  
但罰則施行ノ期日相定候ハ、同省へモ可及通達事  
左院議案 七年十二月二十日

別紙文部省上申ノ趣審査候處藥品取締ノ儀ハ醫制ノ規則ニ原キ贗藥租惡ノ品類等賣買セサル様逐次著手スヘキハ勿論ノ管ニ候ヘトモ夫カ爲即今細密ノ法則等相設ク候トモ實際行ハレサル而已ナラス却テ地方ノ情態ニ戻リ候場合モ可有之ニ付先以藥品中最モ必用ノ種類二三品ツ、追々其名ヲ掲ケ漸ク以テ取締相立候方尤可然且取締罰則ノ儀司法省意見ノ趣モ有之米書貼紙ノ通御裁定相成候方允當ノ筋ト存候因テ御指令御達案トモ勘査此段上陳候也  
東京府達 七年十二月二十七日  
右之通被仰出候間各區無洩可相詢者也

文部省ヨリ東京府へ達 八年一月二十三日  
明治七年十二月中キニーチ、ヨードカリ之二藥取締罰則之儀御達有之施行之期日追テ當省ヨリ可相達候付テハ藥舖營業之者專ラ注意可致ハ勿論ニ候得共萬一自己其眞贗純雜ヲ鑑別難出來向ハ日曜日ヲ除クノ外東京司藥場ニ願出候得ハ於同場無費ニテ試驗可致候條管下へ布達可致此旨相達候事  
文部省ヨリ京都府へ達 八年五月二十五日  
昨七年十二月中キニーチ、ヨードカリノ二藥罰則ノ儀御達有之施行ノ期日ハ追テ當省ヨリ可相達候ニ付テハ藥舖營業ノ者專ラ注意可致ハ勿論ニ候得共萬一自己其眞贗純雜ヲ鑑別難出來向ハ京都司藥場ニ願出候得ハ於同場無費ニテ試驗可致候條管下へ布達可致此旨相達候事  
内務省ヨリ大阪府へ達 八年八月二十四日

キニーチ、ヨードカリ  
ノ二藥ノ實態品取締規則  
二願出リシム  
八年十月内務省布達中第  
十九號ニ依テ消滅ス

來ル十月一日ヨリ藥品取締罰則施行候旨去七月二十三日附テ以テ相達置候ニ付テハ現今所持ノキニ  
チ、ヨードカリハ勿論將來買入ノ節共自ラ鑑定難出來モノハ司藥場ニ於テ無費ニテ試驗可致遣候條同  
場へ願出試驗ヲ可受旨管下一般其筋營業ノ者へ布達可致此旨相達候事  
東京府達 八年一月二十四日  
右之通被相達候間其筋渡世ノ者へ無洩可相達事

京都府下ニ司藥場ヲ設  
置ス

九年八月内務省布達甲第  
三十二號ヲ以テ廢止ス  
八年六月布達第百十二號  
ニ依テ内務省ニ屬ス衛生  
總ノ日ニ載ス

東京府種物屋ニ於テ莖  
陀羅種子ノ賣買ヲ禁  
ス

大阪府下ニ司藥場ヲ設  
置ス

十六年五月内務省告示甲  
第八號ヲ以テ名稱ヲ改メ  
八年六月布達第百十二號  
ニ依テ内務省ノ管理ニ屬  
ス衛生總ノ日ニ載ス

司藥場藥品検査印紙見  
本

文部省布達 八年二月十五日  
第二號(官廳事務)

今般京都府下ニ司藥所設立候條此旨布達候事

東京府布達 八年二月二十日

右之通布達有之候間各區無洩可相徇者也

東京府達 八年二月十九日  
番外市在各區々長月長

府下種物屋ニ於テ蔓陀羅華種子賣買候向往々有之趣右ハ昨七年九月中文部省ヨリ達有之候毒藥品ニ有  
之洩ニ取扱候テハ不測ノ危害ヲ生シ候儀モ可有之趣同省ヨリ達趣候間右ハ昨七年九月中同省布達候毒  
藥取扱規則ノ通相心得賣買可致段其筋ノ者へ相達可申此旨相達候事

文部省布達 八年三月二十四日  
第六號(官廳事務)

大阪府下へ司藥所設立候條此旨布達候事

東京府達 八年三月二十八日

右之通布達有之候間各區無洩可相徇者也

東京司藥場ヨリ文部省醫務局へ上申 八年四月二十九日

八年十月内務省布達甲第  
十九號ヲ以テ検査印紙ヲ  
定ム

ヨードカリ、キニ  
ノ二項取締罰則施行期  
日

十三年一月十七日ノ達ニ  
依テ消滅ス

今般三府司藥場通用ノ検査濟印紙見本ノ通り製造成就ニ付以來諸藥商ヨリ願出候藥品ノ取ルヘキモノ  
ニ貼與候條此段御心得ノ爲メ申進候也



内務省ヨリ東京京都大阪三府へ達 八年七月二十三日

昨七年十二月二十五日御達相成候藥品取締罰則來ル十月一日ヨリ施行候條管下布達可致此旨相達候事

内務省衛生局ヨリ東京京都大阪三司藥場へ達 八年八月五日

藥品取締罰則ノ儀來ル十月一日ヨリ施行候ニ付別紙三府へ御達相成候條各場ニ於テ豫メ注意致シ試驗  
上不差支様御處分可有之此段及達候事

司法省ヨリ東京京都大阪三裁判所へ達 八年七月二十五日

藥品取締罰則之儀ニ付別紙甲印之通昨七年十二月中御達相成居候處今般右施行日限ノ儀内務卿ヨリ乙  
印ノ通々知有之候條此旨相達候事

内務省上申 八年七月二十三日

昨七年十二月二十五日三府へ御達相成候藥品取締罰則ノ儀來ル十月一日ヨリ施行致シ候條此段御届申  
上候也

内務省ヨリ司法省へ通牒 八年七月二十三日

昨七年十二月二十五日三府へ御達相成候藥品取締罰則之儀來ル十月十一日ヨリ施行候條此段及御通達  
候也

東京府達 八年七月二十四日

右ノ通達有之ニ付其筋渡世ノ者へ無洩可相達事

司藥場試驗心得并藥局試驗法  
十年三月二十六日內務省達ヲ以テ各司藥場試驗條例ヲ改定ス

八年十月內務省布達甲第  
十九號ヲ以テ許藥服用印  
紙ヲ定ム

內務省ヨリ東京京都大阪司藥場へ達 八年十月二十五日(官報門見制)  
今般司藥場試驗心得并藥局試驗法別冊之通相定候條此旨相達候事  
(別冊)

內務省衛生局出張司藥場試驗心得

- 第一條 凡ソ藥品ハ醫藥ニ供シテ能ク其目的ヲ達スルノ力アルモノハ必スシモ化學上所用品ト同一ナル試驗ヲ要セズ又品ニ因リ形色臭味等ヲ以其眞實ヲ決定スルコトアルヘシ  
此試驗法ハ各司藥場ノ意見ヲ萃メ衛生局長ノ見込ヲ以テ卿輔ニ具狀シ決定スルモノトス因テ逐次編纂日本藥局試驗法ト爲スヘシ
- 第二條 罰則内ノ藥品試驗ハ右ノ日本藥局試驗法ニ照準シテ變徵ナキ者ハ甲號許藥用ノ印紙ヲ貼シ其不可ナルモノハ乙號禁藥用ノ印紙ヲ貼シテ本人ニ還付ス可シ  
但シ罰則外ノ藥品検査ヲ請フモノアルトキハ普通ノ法ヲ以テ其性分ヲ鑑別シ試驗表ヲ交付シ其眞實精粗ヲ説示スヘシ
- 第三條 罰則内外ノ藥品人民ヨリ願出サルモノト雖モ時宜ニヨリ司藥場へ持出サセ試驗スルコトアルヘシ
- 第四條 藥品検査ヲ願出ルモノニハ藥名瓶數及引取先ヲ願書ニ詳記シテ持參セシムヘシ
- 第五條 前條ノ願書ヲ添ヘ藥品検査ヲ願出ル時ハ預リ證書ヲ渡シ置キ検査濟ノ上證書ト引替渡スヘシ  
但同種品中小量ノ藥ヲ買上後日照會ノ爲メ記號ヲ附シテ場中ニ備置クヘシ
- 第六條 諸種ノ礦物并ニ飲食物等ノ検査ヲ願出ル時ハ該場ノ都合ニ依リ試驗シ與フヘシ
- 第七條 都テ司藥場ニ於テ試驗ヲ遂ケタルモノハ一々其分析表ヲ製シ一箇月宛取纏翌月十五日迄ニ本局ニ開申シ各府司藥場互ニ送致シテ參考ニ供フヘシ
- 第八條 鑛泉分析ハ定性若クハ定量ノ二法ヲ用ヒ其功用ヲ記附シ得ルコトヲ目的トシ其試驗表ニ葉ヲ

十九年六月內務省令第十  
號ヲ以テ藥局方ヲ定ム  
十一年二月二十二日內務  
省達ヲ以テ許藥品取纏  
規則ハ追加藥品二十種ノ  
試驗法ヲ定ム

製シ一葉ハ該場ニ留メ置キ二葉ハ本局ニ出シテ功用書ヲ請ヒ試驗表ヲ添ヘ該府縣及願主ニ交付スヘシ  
但各府司藥場互ニ送致スルコト前條ニ同シ  
右之通相定候事  
日本藥局方試驗法

(第一)沃度加里

白色若クハ透明ナル骰子形ノ結晶ニシテ水分ヲ引クノ力強カラス  
四分ノ三量ノ水ニ溶解セサル可カラズ此溶液極テ僅微ノ亞兒加里反應ヲ呈スルモ可ナリ炭酸鈉篤亞斯  
此溶液ニ稀硫酸ヲ加フルモ泡沫ヲ生ス可カラズ炭酸鹽  
濃稠溶液ニ強酒精六分ヲ混スルモ全ク透明ニシテ固形物ヲ生セサルヘシ硫酸鹽炭酸鹽磷酸鹽等  
稀薄溶液ハ(コロル)バリユム)ヲ加フルモ太々濁濁ス可カラズ硫酸鹽沃度加里炭酸加里  
稀薄溶液ハ酒石酸ニ因テ帶褐黃色ニ變ス可カラズ沃酸鹽  
溶液ニ頗ル過量ノ硝酸々化銀ヲ加ヘ全ク近渣ヲ生セサルニ至リ傾澄シテ上清ヲ去ルノ後チ沉澱ニ稍稀  
キ安母尼亞水ヲ加ヘテ振盪過シ清朗ナル濾液ニ過量ノ硝酸ヲ加フルニ自渣ヲ生ス可カラズ  
但僅微ノ濁濁ハ之ヲ生スルモ可ナリコロルカリユム)コロル)ナトリユム)フ  
溶液一兩滴ヲ試験管ニ注キ赤色次硝酸含有ノ硝酸若クハ次硝酸含有ノ硫酸小許及コロルホルム若クハ  
硫化炭素小許ヲ加ヘテ振盪シ遊離セル沃度ヲコロル)若クハ硫化炭素ニ溶解シ之ニ細心シテコロル  
水ヲ加ヘテ沃度ノ紫色ヲ失スルニ至ルヘシ斯ノ紫色終ニ帶褐黃色ニ變スルトキハフロム)ヲ混スルノ  
徵ナリ故ニ硫化炭素ノ紫色ハ全ク褪色シ帶褐黃色ヲ遺スヘカラスフロム)  
右ノ定性法ヲ施シテ汚物若クハ質物ヲ認ルトキハ則チ定量法ニ移リ昇汞ノチトロール液ヲ以テ沃度加  
里百分ノ集成ヲ驗スヘシ若シコロル)或ハフロム)ヲ混セザルトキハ硝酸銀溶液ヲ以テ之ヲ定ムルヲ  
得ルナリ



硝酸々化パラジウム、ノ、チトール、液ヲ用ユルトキハプロムカリウム、コロールカリウム、或ハ他ノ輕金屬鹽ヲ混セサル沃度剝篤亞斯ノ量ヲ詳細ニ驗ス可ケレトモ醫藥上ノ目的ニ在テハ右列スル第一號ヨリ第八號迄ノ返應ヲ以テ足レリトス斯ル反應ヲ試驗ノ規則トス第九號ハ時宜ニ依リテ施スノミニシテ正規ニ非ス

(第二)硫酸規尼涅

硫酸規尼涅ハ纖細純白ナル鐵狀ノ結晶ニシテ其味甚タ苦シ無形ノ粉末ニアラス之レニ強硫酸ヲ沃クモ其色ヲ變セサルヘシサリシネ砂糖フロリヂネ。之ヲ白金葉上ニテ炒ナルニ其初メ熔化シテ後焦黑シ十分燒灼スルニ至テ些少モ殘留物ヲ見ルコト勿ルヘシ無機鹽

強烈酒精ノ暖カナル者ニハ容易ニ溶和スルモノナリヨム

十二分以上ノ水ニ硫酸一二滴ヲ注キ酸性ト爲シタル者ニハ全ク溶解セズンハ非ス澱粉スタアリーネ等此規尼涅ノ一分ニエーテル二十分礮砂精二分ヲ沃テ攪和シ放置スル若干時ナルトキハ透明ナルエーテルハ上ニ浮ヒ水様ノ溶液ハ下ニ沉ム此二層ノ中間ニ絮ノ如キ渣滓ヲ生スヘカラスナハルセント以上ノキニ

此規尼涅一分炭酸重土一分ニ水三十分ヲ沃キテ攪和シ重湯煎ニ上セテ乾燥セシメ更ニ水ヲ混シテ濾過シ其濾液ヲ蒸發スレバ極メテ少量ノ固質殘留物ヲ見ルノミマンニツテ

少量ノキニジーネ及ヒシンマニジーネノ硫酸規尼涅中ニ存スルハ各國皆之レヲ許セハ第五條迄ノ試驗法ノ他別ニ試驗法ヲ記載スルヲ要セス但シ精品ノ硫酸規尼涅中少量ノキニジーネヲ驗セント欲セハ左ノ法ヲ用ユヘシ

規尼涅ノ稀硫酸溶液中ニ安母尼亞ヲ加ヘテ沉澱セシメ少量ノ水ニテ洗淨シ而シテ亞的爾ノキニジーネ飽和溶液ヲ注クニ若シ硫酸規尼涅中キニジーネ存セサルトキハ亞的爾證明ナルヘシ然レトモ規尼涅ハ概シテ少量ノキニジーネヲ含ミ微シク混濁スルモノナリ

硫酸規尼涅中シンユニーネヲ以テ偽造スルコトヲ知レハ定量法ヲ用ユ即チ十分ノ硫酸規尼涅ヲ溶和シ安母尼亞ヲ以テ沉澱シ其沉澱物ニ亞的爾ヲ注キ殘餘ノ沉澱物ヲ取り更ニ亞的爾ニテ洗ヒ乾カシテ定量スヘシ

此幾尼涅少量ヲ試験管ニ盛り強酒精ヲ注キ稀硫酸一滴ヲ點シテ溶解シ之ニ沃度丁幾ヲ加フルトキハ直チニ硫酸沃度幾尼涅即ヘラバチート沉澱ヲ生セサル可カラス單一ノキニジーネニシテ毫モキニジーネヲ含マサルモノハ此沉澱物ヲ生スルコトナシ

鹽酸規尼涅

白色束絨狀ノ結晶ナリ

強硫酸ニ由テ變色スルコトナシ

白金葉上ニ炒ルトキハ全ク燒失シテ毫モ殘留ヲ見ルコトナシ  
温メタル強酒精ニ全ク溶解スヘシ

一二滴ノ硫酸ヲ以テ酸性ト成シタル水中ニモ全ク溶解スヘシ

礮砂精及ヒエーテルヲ以テシンユニーネヲ驗スルノ法ハ硫酸規尼涅ニ同シ  
炭酸重土ヲ以テマンニツチヲ驗スル法モ亦硫酸規尼涅ニ同シ

此溶液ハ稀硫酸ニ由テ混濁スヘカラスコロールバリユム  
此溶液ハコロールバリユムニ由テ毫モ沉澱物ヲ生ス可カラス但シ些少ノ混濁ハ妨ケナシトス  
一分ノ鹽酸規尼涅ヲ二十分ノ強酒精及ヒ稀硫酸一二滴ト混スルモ透明液ヲ得ヘシ  
強酒精稀酸竝ニ沃度丁幾ヲ以テヘラバチートヲ驗スルハ硫酸規尼涅ニ同シ

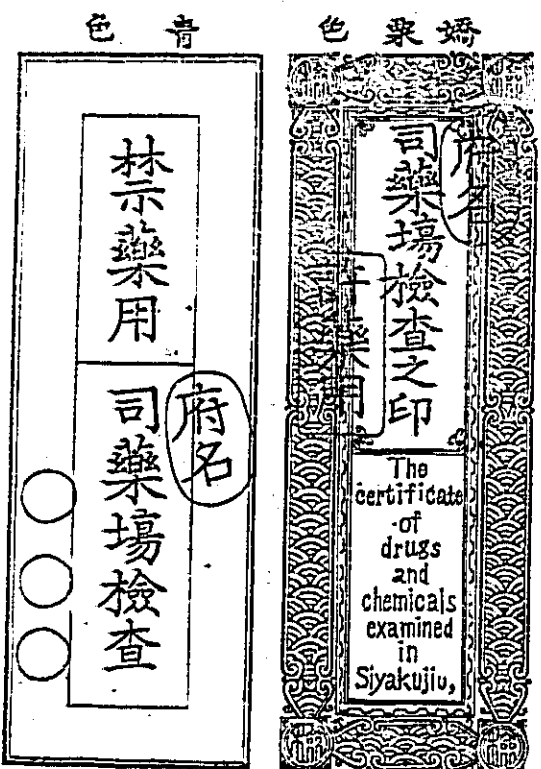
內務省布達 甲午年十月二十七日

藥品ノ儀ハ重要ノモノニ候ヘハ屢惡ノ品不取扱樣最注意可致事ニ有之逐次取締方法可相立處ヨリドカリ、キニーネノ二藥ハ特ニ緊要有力ノ品柄ニ付右二品ヲ始トシテ本年十月一日ヨリ先以三府ニ於テ賣買上取締則施行相成候ニ付各司藥場ニ於テ検査ノ分ハ眞實精粗ノ證トシテ左ノ見本ノ印紙ヲ瓶口ニ

司藥品検査印紙  
十年四月内務省布達甲午第七號ヲ以テ改定ス

貼附候條爲心得此旨布達候事

追テ各地方ニ於テ眞贋鑑別難出來モノハ願ニヨリ無費ニテ試験可致遣候條最寄司藥場へ差出可申事



東京府達 八年十一月十日

右之通布達有之ニ付各區無洩可相詢者也

内務省ヨリ東京京都大阪三府司藥場へ達 九年三月九日

自今舶來藥品検査濟之節ハ罰則内外ニ不拘無學ノ藥舖取扱上誤認無ラシメサル爲メ總テ日常普通ノ和名ヲ記シ下付可致若和名無之分ハ原語ヲ片假名ニテ書記シ可申此旨相達候事

東京京都大阪三府へ達 九年三月十九日

贋惡藥品取締及ヒ罰則ノ儀明治七年十二月相達候處今般左ノ藥品二十種ヲ追加シ來ル五月一日ヨリ右罰則ニ照シ處分候條此旨管下へ可布達事

(追加藥品)

舶來藥品検査濟ノ節ハ日常普通ノ和名ヲ記シ下付可致若和名無之分ハ原語ヲ片假名ニテ書記シ下付可致事

十九年六月内務省令第十號ヲ以テ監局方ヲ定ム

九年四月二十七日内務省衛生局達ヲ以テ普通名稱記載方ヲ示ス

ストロキニ一外十九品ヲ贋惡藥品取締罰則ニ追加ス

十三年一月十七日達ヲ以テ廢止ス

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 一 ストリキニ一ネ | 一 モルヒ子      |
| 一 アトロヒネ   | 一 サントニネ     |
| 一 吐根      | 一 ギキタリス     |
| 一 機那皮     | 一 苦扁桃水      |
| 一 ラウリール水  | 一 エーテル      |
| 一 コローロホルム | 一 礮砂精       |
| 一 炭酸アムモニヤ | 一 コロラルヒドレート |
| 一 臭素カリ    | 一 枸橼酸鐵キニ一ネ  |
| 一 硝酸銀     | 一 硝酸ビスミユット  |
| 一 甘汞      | 一 昇汞        |

司法省警視廳へ達 九年三月十九日

明治七年十二月相設候贋惡藥品取締罰則中追加藥品ノ儀別紙ノ通三府へ相達候條此旨相達候事

内務省 九年二月二十四日

一 昨明治七年十二月ヨリドカリキニ一ネノ二藥取締罰則被仰出爾他ノ藥品ハ順次其名ヲ揚テ御施行可相成段三府へ御達相成二品ノ取締畧其緒ニ就キ候ニ付テハ今般日常必須ニシテ贋惡多キモノ更ニ二十種ヲ採摘シ右罰則内へ追加致度至急御允許ノ上左案三府并司法省警視廳へ御達相成度此段相伺候也

指令 九年三月十九日

伺ノ趣開届候事

東京府布達 九年三月二十日

贋惡藥品取締罰則并施行期日明治七年十二月二十七日同八年七月二十四日及布達置候處今般左ノ藥品二十種ヲ追加シ來ル五月一日ヨリ右罰則ニ照シ處分候旨被相達候條此旨布達候事

内務省衛生局ヨリ東京京都大阪司藥場へ通知 九年三月二十五日

毎月御差出相成候検査藥品表當局ニ於テ時々廣告イタシ候付テハ各場體裁ニ異同アリテハ不都合ニ付

七年十二月二十七日布達  
八年七月二十四日布達  
九年三月二十五日布達  
九年五月一日布達  
九年七月二十五日布達  
九年十月二十五日布達  
九年十二月二十五日布達

同藥場検査藥品表々式  
十一年十二月二十五日衛生局達ヲ以テ藥品検査表ヲ改正ス

別紙表式ニ從ヒ御製造有之度此段及御通知候也表式 關ク  
 追テ一表中ニ再三度所出ノ同種藥品ハ初中終必一名ヲ以テ御記載有之度候比ハ阿片ハ何處ニテモ  
 阿片ト書シ阿芙蓉又ハ「ナヒニーム」ト書セサルカ如シ

内務省衛生局ヨリ東京京都大阪可樂場へ達 九年四月二十七日  
 衛第四百六十號ヲ以相達候藥名書記之儀ニ付普通ノ名稱別紙之通略定候條總テ右ニ照準記載方取計可  
 致此段及通達候也

檢査濟船來藥品普通名  
 稱記載方  
 衛第四百六十號ハ九年三  
 月九日內務省達ヲ指ス  
 十九年六月內務省令第十  
 號ヲ以テ日本藥局方ヲ定

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 一ヨードカリウム           | 一キニーネ            |
| 一硫酸キニーネ            | 一鹽酸キニーネ          |
| 一枸橼酸キニーネ           | 一枸橼酸鐵キニーネ        |
| 一鞣酸キニーネ            | 一續草酸キニーネ         |
| 一醋酸キニーネ            | 一ストリキニーネ         |
| 一硝酸ストリキニーネ         | 一鹽酸ストリキニーネ       |
| 一アトロピネ             | 一硫酸アトロピネ         |
| 一吐根                | 一吐根チンクツウル (吐根丁幾) |
| 一吐根錠               | 一吐根シールツプ (吐根舍利別) |
| 一吐根酒               | 一キナ皮             |
| 一褐キナ皮              | 一赤キナ皮            |
| 一王キナ皮              | 一ラウリールケルス水       |
| 一コロロホルム            | 一炭酸アムモニア         |
| 一プロームカリウム (臭素カリウム) | 一硝酸銀結晶熔成         |
| 一第一コロル汞 (甘汞)       | 一第二コロル汞 (昇汞)     |

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 一モルヒネ醋酸、硫酸、鹽酸       | 一サントニーネ及其錠 |
| 一ガキタリリス葉            | 一苦扁桃水      |
| 一アムモニア水 (福砂精)       | 一フロラルヒドレート |
| 一鹽基性硝酸蒼鉛 (硝酸ビスミユット) |            |

内務省達 乙第九年五月八日 府縣

製煉藥品ノ儀ハ本邦ニ於テ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ妄信シ概シテ國產ヲ卑ムノ  
 風ニ流レ質惡藥ノ輸入日ヲ逐テ増加シ其損害不尠ニ付自今製造品試験ノ上其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相  
 渡スヘク候條醫療用職用ヲ不問藥品製煉致シ候者ハ其製造品相添左ノ箇條書ニ從ヒ願出許可ノ上販  
 賣致シ候條可取計此旨相達候事

但阿片製造人ノ儀ハ詮議ノ次第有之候條當分地方限り聞届置昨八年當省乙第百五十六號達ニ照準シ  
 可取計事

製藥免許手續

- 一製藥人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作り其製品ヲ添へ管廳へ出サシメ管廳ハ之ニ添書シ  
 テ内務省ニ出スヘシ
- 一製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄可樂場ニ送致シ試験ヲ受ケ其譯添書ニ追申スヘシ
- 一試験ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニヨリ可樂場  
 ニ於テ製煉ノ方法傳示スヘシ
- 一製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及其住所姓名ヲ記載シ每器ニ貼シ賣販ス  
 ヘシ

但藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘシト雖モ洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名  
 或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ

八年十一月內務省達乙第  
 百五十六號ハ阿片ノ條ニ  
 載ス  
 九年十二月內務省達乙第  
 百三十四號ヲ以テ第二條  
 中ヲ改正シ但書ヲ追加ス

製藥免許手續



十年六月衛生局所定ヲ以テ  
テ改換ノ即決書々式ヲ定

一 鑑札雛形

衛生門 藥劑

此内彩紋... 彩紋畧之

番 號

### 製藥免許之證

生 局  
之 印

朱印

何 縣 府 何 國 何 郡 何 町 何 番 地

何 之 誰

一 藥 名 一 同 一 同  
一 同 一 同

### 右製造免許候事

年 號 月 日

內 務 卿 氏 名 印

衛生局ヨリ内務省へ同九年五月日附  
昔時醫藥ニ使用スル藥劑ハ植物礦物ヲ不問專ラ天造物ヲ主用候處學術ノ開達ニ隨テ其成分ヲ分析シテ  
之ヲ化合シ以テ其功用ヲ確切著明ナラシム近來醫學ノ進歩ニ隨ヒ藥物ノ如キ製造場ヲ作ルニ至ラスト雖  
モ一日ヨリ和増候處實用化學ノ開クサルニ因リ未タ人民ニ於テ歐洲ノ如キ製造場ヲ作ルニ至ラスト雖  
モ輕易ノ藥劑ハ醫師藥舖其他ノモノモ之ヲ製シ往々意外ノ良品モ有之候ハ共人々之ヲ鑑定スル能ハス  
縱令良品廉價ナルモ購求スルモノ無之偏ニ輸入ノ品ヲ妄信スルヨリ本人ノ刻苦ハ毫モ其効ヲ不見隨  
テ輸入品ニ買取藥ヲ增加スル源ト相成内國人民ノ損害ヲ蒙ル其弊實ニ僅少ナラサル儀ニ付自今製藥者  
ニ免許證札ヲ與ヘ政府ニ於テ其良品ナルヲ證シ且其及サル所ハ其方法ヲ傳示シ之ヲ保護獎勵セハ追々  
十分ナル製藥者モ出來輸入ヲ減シテ國產ヲ増シ隨テ買取藥品ノ取締モ一層行届候様相成可申ト存候間  
左案各府縣へ御達相成度此段相候也  
(備考)

内務省衛生局第二次年報抄録  
本邦ハ製藥品ノ原資ト爲ス可キ物産饒多ナルヲ以テ之ヲ内地ニ製造シテ遍ク全國ノ需用ニ供シ天與ノ  
國產ヲ増殖シテ輸入ヲ減却スルノ鴻益ヲ與スヘキノ時ニ在リト雖モ奈何セテ内國製藥品ノ品位ハ渾ク輸  
入品ニ劣ンリトノ懸見人民一般ノ意思ニ沁シ會テ純良ナル製藥品ナルモ其價格殆ト輸入ノ粗品ニ敵ス  
ルヲ得ス徒ラニ商標ノ記號ニ依テ之カ輕重ヲ爲スニ至リ是故ニ純良品ヲ製出スル者ト雖モ其價格ヲ  
貴クセンカ爲メニ枉ラ自ラ歐米ノ商標ヲ擬造スルノ惡習ニ陥リ冥々中本邦製藥進步ノ一大障礙ヲ現出  
セリ是ニ於テ明治九年五月内務省ヨリ製藥免許規則ヲ布達セリ中略蓋シ此規則ノ發行ハ内國ノ製煉藥  
ヲ保護シテ價格ヲ失ハサラシメ以テ製藥進步ノ前途ヲ豁開セシカ爲ナリ

内務省衛生局ヨリ東京京都大阪司藥場へ通達 九年五月十六日  
先般製藥免許ノ儀ニ付乙第五十四號ヲ以テ府縣へ御達相成候付テハ製品試驗願出候ハ、検査ノ上試験  
表二通ヲ製シ一通ヲ願人へ交附シ一通ハ當局へ差出シ尙該品ノ精粗等意見書相添へ同時回送可致此旨  
及通達候事

東京府布達 九年五月十八日

製煉藥品之儀自今其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘク候條醫療用工職用ヲ不問藥品製煉致シ候者ハ其  
製造品相添左之手續ニ依リ願出許可之上販賣可致此旨布達候事  
製藥免許手續

製藥品検査ノ血試驗法  
並出方  
九年五月日附衛生局所定ヲ  
參看スヘシ

東京府製藥免許手續

衛生門 藥劑

一製藥人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作り其製品ヲ添差出スヘシ  
 但願書ヘ其區戸長ノ與印ヲ請クヘシ  
 一試驗ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人之志願ニヨリ司藥場ニ於テ製煉ノ方法傳示スヘシ  
 一製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及ヒ其住所姓名ヲ記シ每器ニ貼シテ販賣スヘシ

但藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘシト雖モ洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通譯名或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ

內務省布達 第九年八月二十二日 (官廳門官制) 見ニ

今般詮議ノ次第有之京都司藥場相廢シ更ニ橫濱長崎二港ヘ司藥場設置候條此旨布達候事  
 但開場ノ儀ハ迫テ布達可致事

(備考)  
 內務省衛生局第二二年報抄錄  
 明治九年八月京都司藥場ヲ廢シ更ニ橫濱長崎ノ兩港ニ設置ス先是大阪司藥場ノ事業日ニ擴張シ京都ニ入ル所ノ藥品多クハ既ニ大阪ノ検査ヲ經ルヲ以テ京都司藥場ニ就テ請フ者漸ク少ク而シテ橫濱ハ輸入ノ咽喉ナルニ登テ検査ノ學ナキヲ以テ藥品ノ賣買大ニ滯滞スヘク長崎ハ終ニ各地ノ司藥場ニ於テ淘汰セル障礙品ノ淵藪トナルヘキ虞アルヲ以テ此ノ廢置ニ及ヘリ

外國人ヨリ藥品鑽石鑛泉等試驗依頼申出候節ハ試驗ノ難易試藥消耗種々多少ニヨリ相當ノ手数料可受取此段相達候事  
 但手数料ノ儀ハ最初相示シ試驗取計可申且該金ハ其都度明細書相添當局ヘ上納可致事  
 內務省衛生局ヨリ大阪司藥場ヘ達 九年八月四日

京都司藥場ヲ廢シ更ニ橫濱長崎二港ヘ司藥場ヲ設置ス  
 十四年七月內務省布達甲第六號ヲ以テ長崎司藥場ヲ廢止ス  
 十六年五月內務省告示甲第八號ヲ以テ橫濱等ノ司藥場名稱ヲ改ム  
 十年四月內務省布達甲第九號ヲ以テ橫濱司藥場ヲ開場シ十年十一月內務省布達甲第二十四號ヲ以テ長崎司藥場ヲ開場ス俱ニ官廳門官制ノ日ニ載ス  
 外國人ヨリ藥品等試驗依頼ノ節ハ相當ノ手数料ヲ受取ラシム  
 九年十一月八日內務省達ヲ以テ検査手数料目ヲ定ム

先般聞届置候外國人ヨリ藥品鑽石鑛泉等試驗依頼ノ節受取候手数料ノ儀ハ其都度明細書相添當局ヘ上納可致此段更ニ相達候事

內務省ヨリ東京大阪橫濱長崎司藥場ヘ達 九年十一月八日  
 外國人ヨリ藥品其他検査願出候節ハ別紙ニ照準手数料收入可致此旨相達候事  
 検査手数料目目

- 第一 自然藥鑛物及滋養物ノ理學的單純鑑定 金四十錢
  - 第二 自然藥及粉類ノ理學的検査ニ兼テ顯微鏡ヲ使用スルモノ 金一圓
  - 第三 製煉醫藥及ヒ飲水ヲ検査スルニ定性法ヲ以テ其二三ノ成分ヲ鑒別スルモノ 金一圓
  - 第四 許多ノ成分ヲ含メル飲水鑛物及金屬類ノ定性分析検査 金三圓
  - 第五 試驗藥醫藥鑛物金屬及水類ノ各成分ヲ詳カニスルコトヲ要シ其精密定性検査ノ容易ナルモノヨリ至難ナルモノ 金五圓乃至十圓
  - 第六 化學上醫藥鑛物及鑛物中ノ一成分ノ定量検査ヲ要シ其ノ容易ナルモノヨリ至難ナルモノ 金三圓乃至十圓
  - 第七 試驗藥鑛物、水、鑛物中二三成分ノ定量検査 金十圓
  - 第八 鑛泉鑛物醫藥等ノ精密ナル定量検査ヲ要スルモノニテ其容易ナルモノヨリ至難ナルモノノ及時間ヲ費スモノ 金十五圓乃至百圓
- 右ノ通手数料相定ムルト雖モ一時ニ許多ノ見本多量ノ化學上醫藥及賣物ヲ検査スルニ當テハ定價百ニ付十乃至二十ヲ減スヘシ

內務省ヨリ外務省ヘ通牒 九年十一月八日  
 外國人ヨリ當省所轄各司藥場ヘ藥品其他分析検査願出候節ハ其品質ニ應シ別紙ノ通手数料收入可致候條此段爲念及御通知候事  
 衛生局ヨリ內務省ヘ伺 九年十一月八日

外國人出願藥品等検査手数料目  
 九年十二月二十八日內務省達ヲ以テ改正ス

外國人出願藥品等検査  
手續料目ヲ改正ス

外國人ヨリ藥品其他検査願出候節ハ自今左ノ手續ヲ經テ手續料ヲ先納スルニ非サレハ試験セサル様致  
度候不然ハ徒ニ煩雜ヲ醸シ可申候條此段至急御決議相伺候也

内務省達 乙第九百三十四號 四年十二月二十四日

本年當省乙第五十四號達製藥免許手續第二條中送致シ試験ヲ受ケ「ヲ送致シ置キ」ニ改メ更ニ但書左ノ  
通増補候條此旨相達候事

但司藥場ニ於テハ試験ノ上直チニ本省ニ差出別ニ該管廳ニ通知セサルモノトス

衛生局ヨリ内務省ヘ伺九年十二月四日

本年五月乙第五十四號御達製藥免許手續第二條ノ旨意ハ府縣ヨリ其製品ヲ各地ノ便宜ニ就キ最寄司藥  
場ニ送致シ試験申出置回答ヲ不待シテ本人願書ニ其譯ヲ追書シテ本省ヘ上申シ司藥場ヨリハ分析ノ末  
右表ヲ直ニ衛生局ヘ廻送セハ同局ニ於テ許否ノ處分可相伺順序ニ候處行違ヒ管廳ト司藥場トノ往復ニ  
時日ヲ移シ候儀モ有之哉ニ付右條項改作ノ上但書ヲ加ヘ一層分明ニイテ候方可然哉御達案左ニ相伺  
候也

内務省ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場ヘ達 九年十二月二十八日

過般相達候外國人出願ノ藥品其他検査手續料表別紙ノ通改正候條英字譯文相添此旨相達候事  
(別紙)

検査手續料目

- 第一 自然藥礦物及滋養物ノ理學的單純鑒定 金四十錢
- 第二 自然藥及粉類ノ理學的検査ニ兼テ顯微鏡ヲ使用スルモノ 金一圓
- 第三 製煉醫藥及飲水等ヲ検査スルニ定性法ヲ以テ其二三ノ成分ヲ鑑別スルモノ 金一圓
- 第四 製煉醫藥及ヒ飲水等ヲ検査スルニ定性法ヲ以テ其三以上ノ成分ヲ鑑別スルモノ 金三圓
- 第五 製煉醫藥飲水礦物等ノ精密ナル定性検査 金五圓乃至十圓
- 第六 製煉醫藥礦物等ヲ検査スルニ定量法ヲ以テ其一成分ヲ鑑別スルモノ 金三圓乃至五圓
- 第七 製煉醫藥礦物等ヲ検査スルニ定量法ヲ以テ其二三ノ成分ヲ鑑別スルモノ 金十圓

司藥場製煉藥免許願藥品検査表式

内務省衛生局所定 九年月日

製煉藥免許願藥品検査表

何司藥場

藥名	許數	人員	禁數	人員	合計	
					品數	人員
通計						
百分比						

第八 鑛泉鑛物醫藥等ノ精密ナル定量検査ヲ要スルモノニテ其容易ナルモノヨリ至難ナルモノノ及時間  
ヲ費スモノ  
右ノ通手續料相定ムルト雖モ一時ニ許多ノ見本多量ノ自然藥製煉醫藥及賣物ヲ検査スルニ當テハ定價  
百ニ付十乃至二十ヲ減スヘシ

内務省ヨリ外務省ヘ通牒九年十二月二十八日

客月八日及御通知候外國人願出ノ藥品其他検査手續料表別紙ノ通改正橫文相添御廻申候條此段御承知  
有之度候也

衛生局ヨリ内務省ヘ伺九年十二月四日

過般外國人願出ノ藥物等検査手續料收入ノ儀ニ付別紙ノ通各司藥場ヘ御達相成且外務省ヘモ御通知相  
成居候處十分精密ナラサル廉有之瑣細ノコトニハ候得共後來外國人引合ニ於テ差違候歟モ難測候條更  
ニ別紙附箋ノ通改正ノ上橫文相添夫々御達相成度此段相伺候

コロラールヒドレート  
保貯及精製法  
十九年六月内務省令第十  
號ヲ參照スヘシ

内務省衛生局報告 十年二月五日 第三號  
近來輸入スル所ノ「コロラールヒドレート」ハ麻酔ノ効少ナクシテ却テ刺戟力ヲ有スルハ屢々本邦醫家ノ訴フル所ト爲レリ蓋シ此弊害ハ(其溶解ノ度適當ナルヲ得サルニ出ツルヤモ知ル可カラスト雖モ)主トシテ此ノ藥品ノ分解シタルモノヲ使用スルニ因ルニ非サルヲ得ンヤ茲ニ其保貯精製ノ諸法ヲ擧ケテ醫家藥劑家ノ爲ニス

「コロラールヒドレート」ハ頗ル潮解シ易キ物ニシテ唯密ナル硝子栓ヲ有スル瓶中ニ於テノミ能ク保貯スルコトヲ得ヘシ若シ硝子栓ノ密ナラサルカ或ハ木栓ヲ有スル瓶中ニ貯フルトキハ暫時ノ間ニ濕潤シ漸々酸性ヲ受ケテ終ニ不適用品トナルモノナリ故ニ純品ト雖モ貯藏ノ法ニ注意セサレハ用ニ適セサルニ至ル

「コロラールヒドレート」ハ其水溶液弱ク酸性ニ返應スト雖モ不適當ナルモノニアラス然レトモ其游離酸ノ量著シルシキニ至ルモノハ素ヨリ可ナラス又硝酸銀ヲ以テ僅微ノ混濁ヲ得ルノミニ止ルヘシ若シ之ニ由テ著シク白淀ヲ生スルトキハ先ツ之ヲ精製スルニ非サレハ醫藥ノ用ニ供スルコト勿レ又瓶ノ栓塞固密ナラスシテ潮解スルニ至レハ已ニ分解シタルカ故ニ決シテ藥用ニ耐ヘサルヲ常トス斯ノ如キ濕潤ノ「コロラールヒドレート」ハ漸ク酸性トナルノ歸向アリテ且ツ帶黃綠色ニ變スルモノナリ

歐洲ヨリ輸入スル所ノ「コロラールヒドレート」ハ栓塞ノ密ナラサルカ又ハ熱國ヲ經歷スルニ由ルカ概シテ濕潤若クハ帶黃色ナルモノ多シ斯ノ如キ品ハ既ニ分解ヲ受ケタルコト著明ナルカ爲ニ司藥場ニ於テハ斷然不適藥用ノ印紙ヲ貼スルモノナリ然レトモ「コロラールヒドレート」ハ能ク之レヲ精製スルコトヲ得ヘキカ故ニ一回濕潤若クハ帶黃色トナリタルモノト雖モ無益ニ之ヲ投棄スル勿レ「コロラールヒドレート」ヲ精製セント欲セハ一分ノ不潔「コロラールヒドレート」ト三分ノ強硫酸(本重凡ソ一)トヲ以テ同ク之ヲ大ナル硝子製若クハ陶器ノ「レトルト」ニ容レ振盪シテ之レヲ深キ砂鍋ニ埋メ冷却器及ヒ受容器ニ連接スヘシ其「レトルト」ノ内ノ混合物煮沸スルニ至ルトキハ流動「コロラール」ノ蒸餾ヲ始ム而シテ後其蒸餾ヲ持續スルノ限界ハ餾液ノ來タルコト甚タ少ナキニ至ルヲ以テ度ト爲スニ在リ

今爰ニ餾出シタル無色ノ流動「コロラール」ヲ水ト混スルニハ「コロラール」十五分水十分ノ比例ヲ以テシ之レヲ放止スルコト一日間ニ至ルヘシ然ルトキハ其「コロラール」ハ清潔ノ「コロラールヒドレート」トナリテ結晶シ來ルモノナリ  
右ノ法ヲ以テ精製スルトキハ之レカ爲メニ損失スルノ量僅カニ五「ベルセント」ニ過キス又「レトルト」内ニ殘留セル硫酸ハ粗品硫酸トシテ之レヲ使用スルコトヲ得ヘシ故ニ此法ハ容易ニシテ且ツ廉ナルモノナリ

布告 十年二月十九日 右大臣岩倉具視署

藥品中刺激性峻烈ニシテ若其用方ヲ誤ル時ハ人命ヲ傷害スヘキモノ少カラス然ルテ或ハ輕忽ノ取扱有之候テハ實ニ不容易儀ニ付右取扱規則左之通相定候條此旨布告候事

毒藥劇藥取扱規則

一 藥品中其効力峻劇ニシテ直ニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキ者ヲ毒藥ト唱ヘ其性効毒藥ノ如ク強烈ナラサルモ其用量ニ依テ容易ク危害ヲ生スヘキモノヲ劇藥ト稱ス其目如左

毒藥

亞砒酸

ホーレル水(亞砒酸(其他砒酸)其他砒劑)

昇汞(第二コロール汞)

白降汞(コロールアミット汞)

赤降汞(赤色酸化汞)

第一沃汞(第一ヨール)黃色ノ者

第二沃汞(第二ヨール)赤色ノ者

硝酸亞酸化汞

磷(ボスボル)

青酸(シヤン水素酸)

青酸加里(シヤンカーリウム)

アトロビーネ(其他アトロビーネ鹽類)

ストリキニーネ(其他ストリキニーネ鹽類)

ヘラトリニーネ

アコニチネ

コニーネ

毒藥劇藥取扱規則  
十三年一月布告第一號ヲ以テ廢止シ更ニ藥品取扱規則ヲ定ム

揮發苦扁桃油(蒸餾シ得テ)  
 コロ、フオラム  
 劇藥  
 ヨード其他ヨード  
 ヨード加里(ヨード、ガイ)  
 腐蝕加里(苛性加里)  
 皓礬(硫酸亞鉛)其他亞鉛  
 鹽化金ナトリウム其他金  
 膽礬(硫酸銅)  
 甘汞(第一コロル汞)  
 硫酸ガドミニウム  
 硝酸  
 萘酸  
 コロラルヒドレート  
 サントニネ(セメンソート)  
 苦扁桃水  
 巴豆  
 芥子油  
 阿片其他製  
 雙鸞菊球根同  
 荳蔻葉同  
 ヒヨス葉同

モルヒネ其他モルヒネ  
 鹽類  
 プロロム  
 臭素加里(プロロム、カ)  
 腐蝕ソーダ(苛性ソーダ)  
 硝酸銀其他銀  
 鉛糖(醋酸鉛)其他鉛  
 銅礬(硫酸アン)其他銅  
 ビスミット(鹽基性硝酸蒼鉛)  
 吐酒石其他アンチモン  
 硫酸  
 鹽酸  
 石炭酸  
 ヨードフォルム  
 老利兒水(ラウリールケルス水)  
 巴豆油  
 コロダイン  
 吐根同上  
 ヘルンボリ根(藜蘆)同  
 ヤーラツパ根及ヒ脂同  
 ジキタリス葉同

シキユータ葉同  
 サビナ葉同  
 コルシクム實同  
 斑猫(莞菁)同

蔓陀羅華葉同  
 コロシント實同  
 カラバル豆同  
 番木鱈子同

右ハ現今日常使用スル所ノ毒藥十九種劇藥四十六種ヲ掲ルモノニシテ專ラ世人ノ解シ易キカ爲ニ普通ノ名稱ヲ用フ此他新發明新舶載ノ藥品及ヒ其性効ノ確知シカタキモノハ先ツ司藥場ニ出シテ試験ヲ受ケ藥効ノ劇易ヲ判シタル上ニアラサレハ販賣スルコトヲ許サス

一毒藥劇藥ハ在來商標ノ外別ニ必ス本邦普通ノ名稱(或ハ假名)ヲ記シタル名標ヲ貼附スヘシ  
 一毒藥劇藥ハ別段ニ戸棚或ハ箱等ヲ製シテ之ヲ貯藏シ他ノ藥品ト混雜スヘカラス

一毒藥劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥商化學家及ヒ工職家ヨリ需要ノ趣意ヲ記シタル證書ヲ以テ求ムルニ非サレハ決シテ販賣スルヲ許サス

一前條ノ規則ニ據リ毒藥劇藥ヲ販賣スルトキハ其藥名分量年月日及ヒ買人ノ住所姓名ヲ別帳ニ記載シ買人ヨリ送ル所ノ證書ヲ貯ヘ置ヘシ

但幼少ノ者及警者輩者等其他不能力ノ者ニハ一切付與スヘカラス  
 一醫師ノ處方書ニ據テ毒藥ヲ調合シタルトキハ其藥名分量用法年月日醫師及ヒ患者ノ住所姓名ヲ別帳ニ詳記シ處方書ヘ割印スヘシ

一毒藥劇藥ヲ取扱タル調劑器ハ其時々必ス丁寧ニ洗淨拭清スヘシ且ツ砒石及ヒ水銀劑ノ用器ハ他ノ藥品ノ用ニ當ツヘカラス

右之規則ニ戻リテ毒藥劇藥ヲ販賣シタルモノハ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

内務省何九年七月六日

毒藥取締ノ儀ニ付テハ明治七年中文部省ヨリ先以三府へ布達相成候處漸次各縣ニ於テモ其荷モス可ラサルニ著眼シ該規則ニ準シ取締方相設ケ候向モ不少己ニ一般藥物取扱ニ注意致シ候機會ニ相運ヒ且又追々醫術相開ケ候ニ隨ヒ藥物ノ販賣モ日ニ盛大ニ趣キ最早府縣一般取締ノ方法無之ヲハ輕卒ノ取扱ヨリ不測ノ危害ヲ生シ候儀モ保シ難ク候間別冊ノ通至急御公布有之度左案相添此段相伺候也元老院



指令十年二月十九日  
伺ノ趣第二十號ノ通布告候條此旨可相心得事

内務省ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場へ達 十年三月二十六日(官報門官制)  
一昨明治八年中其場試驗心得相違置候處今般別冊之通試藥條例改定候條此旨相違候事  
司驗場試驗條例

司驗場試驗條例改正  
十三年七月十七日內務省  
達ヲ以テ各司驗場試驗條  
例ヲ改正ス  
十二年三月十一日內務省  
達ヲ以テ大阪司驗場試驗  
條例ヲ改正ス  
十二年四月一日內務省達  
ヲ以テ長崎司驗場試驗條  
例ヲ改正ス

第一條 藥物試驗ハ醫師藥師ノ蒙昧ヲ啓發シ奸商ノ弊害ヲ防遏シ賸粗ノ品類ヲ撥斥シテ醫藥ノ功驗ヲ確實明著ナラシムル要件且施行ノ際自ラ外交ニ關係スルモノアルカ故ニ最モ戒慎精密ヲ極メ決シテ過失ナキヲ要スヘシ

第二條 藥物試驗事務ノ進否ハ場長カ責任ヲ負フヘシ以下之レニ依ヘテ專ラ其責ニ任シ教師試藥師之レニ亞キ試驗ノ成否過失等ニ關スル事故ハ教師試藥師其責ニ專任シ場長之レニ亞ク

第三條 藥物試驗ハ總テ教師ノ專任タリト雖モ其品類ノ夥多ナルカ故ニ九等試藥師以上ヲ以テ之レカ助手トナシ試驗スヘキ藥物ヲ分配シテ分析セシメ教師ハ終始之ヲ監督シテ其成績ヲ詳悉シ許禁ノ判決ヲ爲スヘシ尤モ藥物ノ品質ト試驗ノ難易トニヨリ他ノ助手ヲ要セス終始全ク自ラ其分析ノ事ヲ執ルコトアルハ勿論ナリトス而シテ教師ノ助手タルモノ亦十等試藥師以下ノモノヲ助手トナスヲ得ヘシ

第四條 藥物試驗ノ方法ハ未タ日本藥局方確定セサルヲ以テ舶來藥品ハ各其本國ノ局方ニヨリテ之レカ品位ヲ定メ許可スヘシト雖モ罰則內藥品二十二種ノ如キ其試驗法既ニ定式アルモノハ之レニ準據スヘシ又此他ノ藥品ニシテ其出所製法ヲ詳ニモス或ハ其出所等分明ナルモ必シモ其本國ノ法ニ從テハ本邦ノ製藥家及ヒ醫療上ニ不便ヲ醸スヘシト認ルモノアルトキハ臨時教師場長ト意見ヲ商量シ衛生局長ノ判決ヲ請テ然ル後試驗法ヲ一定スヘシ決シテ各自ノ意見ヲ以テ區々ノ試驗ヲ爲スヘカラス

第五條 試驗濟ノ藥物願人へ下渡シタルモノハ每一週日分每品其許禁シタル譯何氏試驗法及并ニ番號月日藥名商標瓶數及ヒ願人ノ住所氏名引取先キ等詳細記載シテ照考ノ爲メ各司藥場互ニ通知スヘシ但本局へハ一月分取束ヲ開申スヘシ

第六條 藥物試驗ヲ願出ルモノアルトキハ受付掛ニ於テ藥名員數并ニ願人ノ住所姓名及ヒ引取先等ヲ願書ト照査シ不都合ナキヲ認メテ證書ヲ渡スヘシ而シテ詳細受付簿ニ登錄シ且番號ヲ記シ然ル上場長ニ差出スヘシ

第七條 場長ハ受付ヨリ差出シタル願書藥品ヲ受取其藥名商標員數并ニ願人ノ住所氏名及ヒ引取先キ等番號ヲ付シテ簿冊ニ登記シ其藥物ヲ教師ニ引渡スヘシ

第八條 教師ハ藥物ヲ場長ヨリ受取其藥名商標員數月日ヲ帳簿ニ登記シ九等試藥師以上ヲ撰ンテ主任トナシ之ヲ試驗セシムヘシ

第九條 試藥師ハ教師ヨリ命セラレタル藥物ヲ十等試藥師以下ヲ助手トナシ試驗濟ノ上教師面前ニ於テ其成績ヲ明陳シテ許禁ノ判決ヲ承認スヘシ

第十條 但禁藥用ノ品ハ教師ノ意見ニヨリ更ニ他ノ試藥師ニ命シテ再三試驗セシムルコトアルヘシ

第十一條 教師ハ前條ニ掲クル試驗ノ成績ヲ試藥師ヨリ具陳スルトキハ其成分反應ヲ詳細考證シ自己ノ試驗簿ニ許禁ノ次第ヲ記シテ之ヲ該主任ノ試藥師ニ示スヘシ

第十二條 試藥師ハ教師ノ示シタル許禁判決ノ次第ヲ教師ノ簿冊ト毫モ違ハサル様自己ノ簿冊ニ登記該藥品ト共ニ場長ニ送付シテ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 但禁止ノ印紙ヲ貼スル藥品ハ告示箋ニ和洋兩文ヲ記載シ自己ノ氏名ニ捺印シテ教師ノ記名ヲ受ケ之レヲ場長ニ出スヘシ

第十四條 場長ハ教師ノ判決シタル證ヲ認メ其次第ヲ簿冊ニ登記シ印紙ヲ貼セシメ之ヲ監査シテ下付ノ手續ヲナカシムヘシ

第十五條 受付掛ハ右ノ藥物及ヒ告示箋ヲ受取り番號ヲ照査シ許禁并ニ月日等ヲ受付簿ニ登記シテ之ヲ願人ニ下渡スヘシ

右之通相定候事

内務省ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場へ達 十年一月九日

禁藥用并不適藥用ノ藥品ハ印紙貼附ノ外告示箋ヲ送附セシム



粗惡ナル所以ヲ了解セサルヨリ往々疑惑ヲ懷キ殊ニ外國人ノ駁論ヲ來シ候儀モ有之趣ニ候條向後例規  
 印紙ノ他ニ告示箋ヲ製シ其藥瓶ノ商標司藥場帳簿ノ番號及藥用ヲ許ス可ラサル因由ヲ詳カニ記入シ教  
 師ノ記名ト助手ノ鈐印トヲ要シ御下附相成候様致度左スレハ内外人ノ信ヲ盡クシ兼テ試驗モニ層周密  
 ナ加ヘ煩忙ノ際ト雖モ疎漏ニ涉ル可キ慎レモ無之ト存候條別紙雖形ノ通司藥場經費ヲ以テ至急御印刷  
 相成度此段相伺候也

內務省布達 甲午年四月十二日

明治八年十月十九號ヲ以テ司藥場検査印紙ノ儀及布達候處今般右印紙并毒劇藥標記別紙ノ通改正増  
 加候條此旨布達候事  
 但當分從前ノ検査印紙取交セ相用候事

司藥場検査印紙ヲ改正  
 シ并毒劇藥標記ヲ定ム  
 十八年二月內務省告示第  
 五號ヲ以テ検査印紙ヲ改  
 正ス

淡紅色



綠色



茶褐色



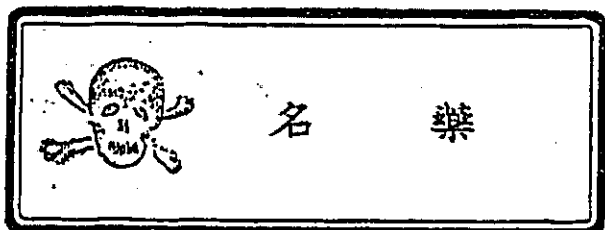
右三種ハ大瓶ニ貼用ス

淡紅色

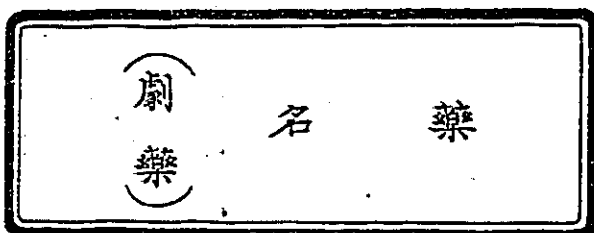


綠色





毒藥ノ記號



劇藥ノ記號

右二種ハ瓶口ニ纏ヒ印紙剝離ノ患ナカラシム

色紅淡



色紅淡



色褐茶



右三種ハ小瓶ニ貼用ス

色綠



色紅淡



右三種ハ中瓶ニ貼用ス

色褐茶





衛生局ヨリ内務省へ伺十年四月日開  
 從前各司藥場於テ貼シ來リ候印紙ノ儀今般罰則藥品二十種御追加ニモ相成内外人ノ關係及ヒ注目スル  
 所亦一層切密ニ至リ付テハ印紙面其下半ハ横文ヲ以テ記シ又其上半從前只藥用ヲ禁スルトノミ記載有  
 之候處追加ノ藥品ニハ醫藥ノ用ニ堪ヘサル品ニシテ工職ノ用ニ供スヘキモノモ亦不勘單ニ藥用トノミ  
 記シ候テハ本邦ノ習慣ニ於テ賣買上疑惑ヲ生シ候儀モ可有之ニ付許禁醫藥用ト相改候様致度且檢査ノ  
 藥品追加スルニ隨ヒ容器ノ大小異同有之貼付上差支候間右印紙ノ外更ニ大小二種ヲ製シ貼用候様致度  
 御布達案并印紙見本相添此段相伺候也

東京府布達 甲午五月十九日

内務省甲第七號布達司藥場檢査印紙并毒劇藥標記見本ハ區務所へ下渡置候條此旨布達候事

製藥品試驗出願ノ簡注  
 意方

内務省衛生局ヨリ東京大阪橫濱長崎司藥場へ達 十年四月二十四日

昨明治九年四月乙第五十四號製藥免許手續御達相成候得共尙其趣旨ヲ忽視シ私ニ製造販賣スルモノア  
 リ又免許鑑札ヲ受ルト雖モ往々輸入品ニ模擬シ洋字ノ藥品名幾ノミヲ貼シテ自己ノ住所姓名ヲ略シ或  
 ハ之レヲ記スルモ洋字ノミヲ用ヒ國字ヲ書セスシテ街賣スルモノ等有之本邦製藥ノ體面ヲ汚シ其進歩  
 ナ障候儀ニ付製藥品試驗願出候節ハ先ッ其商標記號等ニ注意シ若シ右様粗漏ノ取扱致居候モノハ必ス  
 御達ニ準據候上再ヒ試驗可願出旨篤ク説諭相加可申爲念此段相達候事  
 但製造ヲ許可セシ藥品人名別紙之通有之尙向後免許候節ハ其都度可相達事 別紙 略ス

藥品試驗ノ簡心得方

内務省衛生局ヨリ東京大阪橫濱長崎司藥場へ達 十年五月二十六日

藥品ノ試驗遲滯致候テハ商業ノ便ヲ闕候ニ付速ニ相運候様可致ハ勿論ニ候得共只管急速ヲ要シ自然疎  
 漏ニ流レ候テハ更ニ内外ノ不都合ヲ醸シ候儀ニ付自今場長并試藥師ノ宿直ヲ相止メ候條一層慎密ニ取  
 扱ヒ速ニ相運候様別テ可致勉勵宿直ノ儀ハ外事務ノ輩ニ於テ可相勸此旨相達候事

東京司藥場ヨリ内務省衛生局へ伺 十年五月二十八日

ラウリールケルス水ノ儀ハ罰則内ノ藥品ニテ固リ其眞實ヲ嚴別スヘキモノニ候處去歲大阪司藥場教師

桃杏兩仁ノ餉水ヲラウ  
 リールケルス水ト標記  
 シ檢査出願ノトキ禁許  
 印紙貼付方

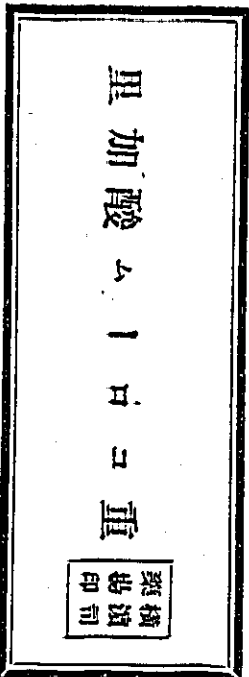
檢査藥品へ貼付ノ藥名  
 箋へ場印ヲ押捺セシム

ドワルス氏桃杏兩仁ノ餉水ヲ以テ之ニ代コヘキノ説出テ、ヨリ該仁ヲ以テ擬製シ檢査願出候モノ極メ  
 テ多ク有之候今般當場教師プリユヘ氏橫濱司藥場教師ヘールツ氏等協議ノ末右等ノ製水モ都テラウリ  
 ールケルス水ト見做シ許禁判決致シ度旨申出候自今ラウリールケルス水ト標記シ檢査願出候モノニシ  
 テ返應其度ニ適スルモノハ該名ノ異同ヲ論セス一般ニラウリールケルス水ト見做シ禁許印紙貼與候様  
 致度現ニ檢査願出ノ分モ不勘候ニ付此段至急相伺候也 十年五月二十  
 九年五月二十  
 九年五月二十

内務省衛生局ヨリ東京大阪長崎司藥場へ通達 十年六月十八日

檢査藥品へ貼付ノ藥名箋へ場印押捺ノ儀橫濱司藥場へ別紙ノ通指令相成候右ハ名箋換貼等奸策豫防ノ  
 一端トモ可相成ニ付自今其場ニ於テモ右ニ照準御取扱可有之此段及通達候也

橫濱司藥場ヨリ内務省衛生局へ伺十年六月十四日  
 檢査願出藥品へ總テ和名札貼付ノ節自今別紙米書ノ如ク捺印致シ下シ渡候得ハ幾分ノ取締ニモ可相成  
 候間此段至急相伺候也 十年六月十八



内務省衛生局所定 十年六月三十日  
 書換製藥免狀賣藥營業及請買鑑札等裏書書式

製藥免狀賣藥營業及請  
 買鑑札等書換ノ節裏書  
 書式



衛生局 印

明治何年何月何日何々ニ付  
書換ルモノ也 (檢印)

検査藥品中容量減却ノ  
モノハ藥瓶ノ商標等ハ  
容量不足ノ印ヲ捺シテ下  
附セシム

内務省衛生局ヨリ東京大阪長崎司藥場へ達 十年七月十日  
検査願出藥品中其容量著シク減却致居候モノ往往有之趣右ハ藥瓶毀損等ヨリ不得止減量候儀モ可有之  
候得共或ハ試験上ノ減量ヲ口實トシ街賣スル等ノ虞モ有之ニ付自今禁許トモ該瓶ノ商標及ヒ譯名票へ  
容量不足ノ印ヲ捺シ可下附依テ右印章相添此段相達候事  
但日報報知朝野購讀賣假名讀繪入ノ七社新聞紙へ左記ノ通廣告掲載候條爲心得此段申添候事  
内務省衛生局ヨリ横濱司藥場へ通牒 十年七月十日  
去ル四日決議相成候減量ノ藥瓶へ容量不足ノ四字ヲ押印候儀各場字體區區相成候テハ不都合ニ付當局  
ニ於テ彫刻差廻候且ツ日報報知朝野購讀賣假名讀繪入ノ七社新聞紙へ左ノ通廣告掲載候條此段併テ申

進候也

印章

容量不足

内務省衛生局廣告 十年七月十日

當局出張各司藥場へ検査願出ル藥品ノ内ニハ著ルシク容量ノ減少セルモノアリ(即チ端物)此ノ如キ品  
種ニハ今後禁許トモ該瓶ノ商標并譯名票へ容量不足ノ四字ヲ捺印シテ返付ス購求スル者宜ク注意スヘ  
此旨廣告ス

横濱司藥場ヨリ内務省衛生局へ 十年六月二十九日  
検査願出藥品ノ内一ヨリ其容量相減シ居候品ハ試験不致直チニ却下致來候處毎減量ノ品検査願出  
候者有之ニ付探索候處外國ヨリ輸入ノ節藥瓶毀損致シ居候ニ付不得止藥舖所有ノ空瓶へ入替候際實ニ  
多少減量相成候品モ有之候得共奸商ニ於テハ求テ減量致置キ司藥場検査ニ付消亡セシ杯ト申觸レ検査  
濟ノ上ハ矢張一ポンド入トシテ販賣致シ今日ノ取引上甚々不正ノ所業有之趣承リ及ヒ候就テハ大ニ司  
藥場ノ名譽ニ關係候儀ニ付都テ減量ノ品へハ端物(藥舖ノ通題)トカ又ハ容量不足ト云フ印ヲ調整シ許禁  
トモ該瓶ノ商標并和藥名札へ捺印致シ下附候標相成候得ハ前件ノ所業ヲモ防遏シ一層各場内外ノ取締  
相立候哉ニ被存候間此段至急仰高裁候也 七月四日 局長 決列

達 十年九月二十七日 内務省 開拓使府 照

石炭酸并硫酸ハ劇藥ニ付本年二月第二十號毒藥劇藥取扱規則ヲ以テ妄リニ販賣不相成旨及布告置候處  
流行病有之節ニ限リ五十倍以上ノ水ニ溶解シタル分及ヒ他ノ藥物ト混和調製シタル分ハ地方官廳限リ  
販賣可差許此旨相達候事

内務省 十年九月二十五日

石炭酸并硫酸ノ儀ハ劇藥ニシテ妄リニ人民へ賣買不相成旨本年二月中第二十號ヲ以テ取締規則公布相  
成居候處右品ハ虎列刺ヲ始メ一般流行病消毒藥中必用無二ノ要品ニシテ目今虎列刺病流行ニ當テハ實  
ニ片時モ不可闕儀ニ有之甚々差支候條五十倍以上ノ水ニ稀釋シ及ヒ他ノ藥物ト混和調劑シタル

石炭酸并硫酸流行病ノ  
ル節ニ限リ販賣許可  
十三年五月達第三十號ヲ  
以テ廢止ス

分ハ流行病有之際ニ限リ一般人民ノ需用ニ任セ販賣方地方官限リ検査ノ上差許候様御處分相成度事情  
差迫リ候儀ニ付至急御決裁ノ上左案使府縣へ御達相成度此段相伺候也  
内務省  
通牒

内務省衛生局ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場へ達十年十一月二十四日

「コロラールヒドラー」之儀ハ本年二月衛生局報告第三號ヲ以テ普告候趣モ有之候處尙近來輸入品中  
皮膚狀ノモノ(Koss)有之不良品ニ候條結晶製ノ良品ニ非サレハ許醫藥用之印紙貼附セサル様可致爲念  
此段相達候事

内務省衛生局報告 第七十一號 一月八日

「コロラールヒドラー」ハ太々變性シ易ク坊間販賣スルモノ或ハ既ニ用ニ堪ヘサルモノ多キカ故ニ客  
年二月第三號報告ヲ以テ注意ヲ要ス可キコトヲ示セリ然ルニ近日輪齋ノ品ハ皮膚狀ノ板片ニシテ結晶  
ナラサルモノ多シ此皮膚狀ノ「コロラールヒドラー」ハ元來過饒ノ水分及ヒ多少ノ不潔分ヲ混有シ極メ  
テ分解變性シ易ク當初試驗ノ時ハ尙ホ良品ナルモ僅力ニ二月ヲ經レハ直チニ變敗シテ一種ノ劇臭ヲ  
放チ甚シキニ至テハ黃色ノ汚點ヲ帶ヒ白烟ヲ發スルニ至ル斯ク變性シタルモノハ其効能全ク相反シ麻  
醉鎮痙ノ効ヲ期シテ翻テ神經ノ衝動ヲ起シ又ハ不虞ノ危害ヲ致スコトアリ既ニ獨英瑞西諸國等諸國  
ノ局方ニ於テモ輒近只結晶形ノ品ノミヲ掲ク自今我各地司藥場ニ於テモ亦只結晶「コロラールヒドラ  
ー」ノミ許醫藥用ノ印紙ヲ貼シ板片狀ノモノヲ取ラス因テ此ニ報告ス  
但該藥ハ栓塞ノ密ナラサルカ或ハ時候ノ轉變ニ由リテ最モ變質シ易キモノナルカ故ニ縱令許醫藥用  
ノ印紙ヲ貼付セルモノト雖モ調劑施與ノ際極メテ精細ノ注意ヲ要ス

内務省衛生局ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場へ達十一年二月二十二日

一昨明治九年三月中罰則内へ追加相成候藥品二十種試驗法別冊ノ通相定候條此旨相達候事  
藥局試驗法

(第三)ストリキニーネ Strichninum.

コロラールヒドラー  
ハ結晶製ニアラサレハ  
許醫藥用ノ印紙貼付ス  
ルヲ禁ス

要藥品取締規則へ追  
加藥品試驗法

十九年六月内務省令第十  
號ヲ以テ藥局ヲ定ム

細小柱狀ニシテ光澤アル無色ノ結晶ナリ其味極メテ苦ク甚々水ニ溶解シ難シ

(最強酒精)及ヒ「コロロホルム」ニハ稍々容易スク溶解シ(純)アルコール及ヒ「エーテル」ニハ殆ント  
溶解スルコトナシ白金葉上ニ燒クニ初メ熔融シ終リニ燃燒シテ毫モ殘留物アル可ラス火ニ耐ユル物  
質ナキノ微

少量ノ「コロロ水素酸」或ハ「硫酸」ヲ含メル水ニ「ストリキニーネ」ヲ溶解シ其液中ニ「苛性曹達」ヲ加フ  
ルハ白色ノ泥渣ヲ生ス更ニ苛性曹達ノ過量ヲ加フルモ其泥渣溶解セサルヘシモルヒネヲ  
含マサル微「エーテル」中  
ニモ亦殆ント溶解ス可ラスカロヒドヲ含マサルノ微

右ノ「ストリキニーネ」ニ「鹽溶液」(重炭酸加里)ヲ加フルモ濁濁ス可ラスナルコチネ「キニーネ」ニシ  
「ストリキニーネ」ニ  
「稀硝酸」ヲ注クニ全ク溶化シテ無色或ハ殆ント無色ナル液トナル可シ「ナリユシネ」ヲ  
「強硫酸」ヲ注クモ發色ス可ラス然レトモ之レニ少量ノ「重」コロロム「酸加里」ヲ加フルトキハ先ツ藍紫色  
ヲ呈シ次テ紅變シ終リニハ綠色ト爲ル可シ「ストリキニー  
ネ」ノ實性反應

(甲) 硝酸ストリキニーネ Strichninum nitrum.

撓屈ス可キ細鐵狀結晶ニシテ絹輝アリ味太々苦ク熱湯及ヒ酒精比重零九零八ニハ容易ク溶解ス  
冷水及ヒ最強酒精比重零八二八ニハ溶解シ難シ

白金葉上ニ熱スレハ先ツ燐燦シ次テ燃化シテ固形物ヲ殘留ス可ラス石炭苦土及他ノ火  
堪ユル物質ナキノ微  
一二片ノ結晶ヲ時表硝子板ニ載セ「稀硝酸」比重一ヲ以テ之ヲ濕ストキハ僅カニ黃色ヲ呈ストモ赤色  
ヲ呈ス可ラス「ナリユシネ」モルヒ  
ネヲ混セサルノ微

水溶液ハ中性ノ反應ヲ呈スヘシ游離硝酸或ハ「ストリキニー  
ネ」アルカロートナキノ微  
水溶液ニ「腐蝕曹達液」ヲ加フレハ白色ノ沉淀ヲ生セサル可ラス此沉淀ハ其過量及ヒエーテルニ溶解  
セス「モルヒネ」  
「キニーネ」及ヒ「ナ  
セ」ルコチネト異ナルノ微

若シ一二ノ結晶ヲ時表硝子板ニ載セ「強硫酸」ヲ注テ溶解シ次ニ「重」コロロム「酸加里」ノ細晶一片ヲ加ユル  
トキハ先ツ藍紫色ヲ呈シ決テ紅變シ終ニ帶綠黃色トナルヘシ「ストリキニー  
ネ」ノ實性反應  
(第四)モルロキ Morphinum.